

2022 年度 事業報告

活動総括

2022 年 2 月にはじまったロシアによるウクライナ侵攻から今も続いている戦争によって、ウクライナの人をはじめとする多くの人々が戦禍に苦しむ状況になりました。KFCでは、昨年度春からウクライナで避難民・難民となった人たちへの支援を目的とした「KOBエウクライナ難民支援活動」を立ち上げ、多くの人たちの助力を得て募金活動などを展開、Unicefのウクライナ子ども支援基金に募金を寄贈しました。その後も神戸市、KICC（神戸国際コミュニティセンター）などと協力しながら、1 年以上にわたり神戸市に避難したウクライナの人々の支援を続けてきました。

コロナウィルス禍がはじまって 3 年、厳しい環境が続く中において、ともすれば内向きな思考、行動になりがちな状況になってもおかしくない状況でしたが、ウクライナの人たちへの支援も含めKFCでは会員、スタッフ、ステークホルダーの努力、協力によって困難を抱える子どもから高齢者までの支援活動を立ち止まることなく進めることができました。また実践だけでなく、笹川平和財団からの委託を受け実施した現在の「多文化共生」施策が、外国人・外国ルーツ市民に届いているかという課題に焦点をあてた調査事業を進め、年度末には報告書も刊行しました。

年度末になってようやくコロナウィルス禍から日常生活への回帰が見込まれる状況になってきましたが、2022 年度は収束がみえない中、KFCの各事業において感染を防ぎながら必要な事業を続けることに苦悩した年ともなりました。

KFCが進める相談、日本語学習、子ども、難民・避難民支援、調査・研究など多様な事業は、多くの成果を出しています。しかし一方で「外国人」、「外人」と定義される人々への理不尽な対応、日々の中でほぼしている側が意識もせず繰り返されるマイクロアグレッションと呼ばれる少数者への傷つけにも接しました。

歴史は、不安（ある種の恐怖といえるかもしれません）が、広がっていくと社会は閉鎖的になり、異なると考える（そのほとんどは実は妄想ですが）人々への攻撃や排斥を繰り返してきました。ウクライナで起きていること、日本の中で起きているヘイトスピーチ・ヘイトクライムも同じ根を持っているように考えます。その根は、日々の中で繰り返される主流者中心の構造と社会の在り方、少数者の軽視や排除からはじまっていると考えます。

多様な人を包摂できるようにKFCが果たせることを進めていきたいと思っていますが、その内実は限られた人員によって多くの負担を負いながらの日常ともなっています。かかわる人たちの生きがい、やりがいと日常のバランスを考える必要を感じた 1 年でもありました。

2022 年度は、次年度に向けKFCが、日常の中で人権の視点を基底に据え、他者と「共に学び、共に育ち、共に創る」営みを進め、愚かな不安が生み出す分断や排除ではなく、「共に生きる」社会を支えていける内実を育み力を蓄えることを考える年であったと思います。

会員、運営体制、会報・メールニュース発行、HP・フェイスブック発信

2022年度会員数は、正会員 36、賛助会員238 でした。（2023 年3月31日現在）

運営体制としては、通常総会を5月 21 日に開催、理事会を 6 回開催、また各事業部門および必要に応じて連携会議を随時実施しました。

またKFC会員および関係者に向け、隔月KFCニュースを発行しました。

ホームページについてはKFCの事業情報やニュースのバックナンバーを適宜アップし、フェイスブックでもふたば国際プラザと連携した情報発信に努めました。

メールニュース

登録者数 550 名弱、隔月で発信しました。

各プロジェクト報告

日本語プロジェクト

昨年度に引き続き対面のクラスとオンラインのハイブリッド形式で日本語学習を進めました。徐々に来日者も増え、学習者数もコロナ前に戻ってきました。後期には行事も活発に行えるようになり、11月にふたばの「まちのぶんかさい」に屋台参加、遠足等も6月、9月、11月、12月と曜日のクラス毎に企画して行うことができました。

2019年4月から委託されていた第三国定住難民向け日本語教室は、引き続き神戸在住の世帯に土曜日に行いました。仕事等の関係で土曜日に来られない人に対しては日曜日や水曜日に行いました。神戸から引越しをした世帯には最長12月までオンラインで行いました。

新たにウクライナ避難民のための日本語クラスを開催しました。2022年3月頃から神戸に避難してくる人も多くなり、クラスを5月の第3週目から行いました。始めの聞き取りでは避難生活は数ヶ月の予定ということでしたので、サバイバルの旅行会話的な内容を取り上げました。残念ながら避難生活は長引いています。日本語学習は旅行会話から生活に必要な内容にシフトしました。今は就労に結びつく内容や近所の人とのフランクな会話が必要となってきました。漢字学習も始めました。

学習はボランティアが担っています。ボランティア同士の交流と研鑽のために「事例発表会」などを計3回行いました。

I. 日本語学習支援

	レベル		場所
水曜午前グループ 水 10:15～ 12:15	入門～中級	「生活日本語」 「入門・初級クラス」	ふたば国際プラザ ハイブリット
木曜午前クラス 木 10:15～ 12:15	入門～中級	「生活日本語」 「入門・初級クラス」	ふたば国際プラザ ハイブリット
土曜午前クラス 土 10:00～ 12:00	入門～中級	「入門・初級クラス」	ふたば国際プラザ ハイブリット
しんさくら 土 10:00～ 12:00 ※上記以外も希望 時間に対応	初級～中級	「生活日本語」	ふたば国際プラザ ハイブリット
夜グループ 木・ 土 17:45～ 19:45	入門～上級	「生活日本語」	ふたば国際プラザ ハイブリット
日曜グループ 日 10:15～ 16:00	入門～上級	「生活日本語」	ふたば国際プラザ

2022 年度 日本語学習者の国籍と参加人数

国籍（参加人数）	1 名の場合は国籍のみ表示
ウクライナ（32 名）、ベトナム（15 名）、中国（13 名）、ミャンマー（11 名）、ネパール（10 名）、ロシア（6 名）、韓国（4 名）、インド（3 名）、タイ（3 名）、フィリピン（2 名）、アフガニスタン（2 名）、カザフスタン（2 名）、ペルー（2 名）、アルゼンチン（2 名）、インドネシア、バングラディッシュ、アメリカ、ブラジル、カナダ、ベルギー、ブルガリア、エジプト、ハンガリー、コンゴ、ナイジェリア、	

Ⅱ. 支援者養成、スキルアップ

○日本語ボランティア研修会

	日時	内容・講師	参加者
KFC 日本語 ボランティア 研修会 第 1 回	4 月 10 日（日） 13:30～15:30	1. コミュニケーションスキルアップーコーチングを 学んでコミュニケーション力をアップしよう ：研修ファシリテーター 坪田 潤 （KFC 日本語支援者、ヒューマンアカデミー非常勤日 本語講師、（財）生涯学習開発財団 認定コーチ）	4 名
日本語ボランティア 事例発表会 第 2 回	5 月 29 日（日） 13:30～16:00	1. 事例発表会 ：発表者 戸田登美子 「日本語学習支援—初心者狭量者として半年の振 返り」 ：発表者 山本富博 「いろいろ（オンライン教材）を使った支援」	19 名
日本語ボランティア 2022 年度振 返りと 事例発表会 第 3 回	2023 年 2 月 5 日（日） 13:30～15:30	1. 事例発表会 ：発表者 宇野祐子 「木曜日午前オンラインクラスの状況」 ：発表者 井上照代 「ウクライナ避難民の教室から」	10 名

Ⅲ. 交流行事など

- ・6 月 29 日（水）姫路太陽公園遠足… 参加者 22 名
- ・9 月 29 日（木）王子動物園遠足… 参加者 14 名
- ・10 月 9 日（日）料理交流会… 参加者 11 名
- ・11 月 27 日（日）ふたば まちの文化祭 模擬店… 参加者 16 名
ふたば国際プラザ お話し会… 参加者 10 名
- ・11 月 30 日（水）森林植物園遠足…参加者 16 名
- ・12 月 25 日（日）卓球&ゲーム大会…参加者 17 名
- ・2 月 19 日（日）お国文化紹介…参加者 19 名

外国にルーツを持つ子どもの学習支援事業

<MOI (新長田教室)>

今年度は、ここ 2 年間の新型コロナの感染が少しずつ収まってきたこともあり、過去 2 年に比べると安定して教室を開催することができましたが、お菓子や飲み物の提供の中止は継続し、代わりにフードパントリーを行い、お米、お肉、お菓子やレトルト食品などを提供しました。

新渡日の子どもたちもこれまでのように学習に来るようになりました。コロナ禍でなかなか来日ができず、母国でオンラインで日本語学習をしてから日本に来たという子どもも数人いました。オンラインで学習できる環境ができたことは、来日前に日本語をある程度習得することができるため、子どもたちの助けになっていると感じました。

今年度も複数のヤングケアラー状態の子ども二人の支援を行いました。一人は細々とですが学習を継続しており、保護者や関係機関、学校やスクールソーシャルワーカーと連携するなどして支援を行いましたが、もう一人は学習継続ができず、力不足を痛感しました。

2022 年度に通ってきた子どもの内訳は 6 ページ表の通りです。中学 3 年生 4 名のうち 3 名が高校進学(私立 2 名、公立 1 名)することができました。1 名の生徒は帰国を予定しており、受験しませんでした。

今年度も支援者として、KFC で学習した経験のあるベトナムルーツ 2 名、ペルールーツ 1 名などの大学生が関わってくれ、同じような背景をもつロールモデルの存在はその下の世代にとってとても心強い存在となりました。それ以外に中国人留学生や中国人の社会人の方などのご協力も得ることができました。

またこれまでと変わらず、財政的にはまだまだ厳しく、時期によっては支援者の確保も難しい状況です。

神戸大学、甲南女子大学、関西国際大学、関西学院大学、神戸学院大学などの学生の受入れも行いました。また神戸高校、長田高校、小林聖心女子学院などの高校生も自主的に参加してくれました。

今年度は、日本語プロジェクトと連携して、土曜日には親子で学習できる日本語学習教室も開催しました。

<はいず (三ノ宮分室)>

経過

ようやくコロナの感染拡大も一段落し、一斉休校などはなくなりましたが、子どもたちや支援者に感染者があり、落ち着かない 1 年でした。今年も感染予防のため、教室型で席を 1m 以上離しましたが、徐々にカルタやコマ回し、折り紙など、子ども同士の触れ合いも限定してですが、行えるようになってきました。

今年も学校の宿題を中心にはいずでの学習を続け、週 2 回来る子どもたちもいました。

2 学期には、8 月に中国で高校 1 年生を終了してきた生徒を中国人留学生などが支援してくれましたが、中学校も高校も受け入れられなかったため、なかなか日本語習得が進みませんでした。中学英語数学の復習も併せて取り組み、2 月の外国人特別入試枠で高校に合格することができました。しかし、兵庫県下で外国人特別入試枠 15 人(1 校 3 人)というのは厳しすぎます。

子どもの状況

子どもたちは、日本語の指導と、学校の宿題を中心に学習面での躰きや言葉の課題を支援しています。今年は新たに日本に来た子どもたちが久しぶりに多く、日本語支援が必要になりましたが、やはり学習の中での日本語指導も必要でした。学校での学習への不安が少なくなり国語や社会なども学習が進むという成果もありますが、やはり一番の課題は、読解問題や地理歴史面での社会科等の知識が少ないことです。また、数概念や九九、計算が苦手な子どもたちもいて、算数の学習を避ける傾向もありますが、ボランティアの方の丁寧なかかわ

り方で、苦手な算数ができるようになった、という作文を書いた子どもがいて、その作文は賀川記念館作文コンクールで賀川記念館長賞に選ばれました。

子どもをとりまく状況と連携相談窓口

高校進学や中学の問題等改めて保護者との相談窓口や学校との連携が取れることの必要性を感じ、そのためにも学校と情報交換をする必要がありました。保護者が日本の学校の状況を理解するのも難しく、学校側も保護者の理解度を把握できていないこともあり、子どもにとっては、さらに困難を負うことになります。次年度はぜひ学校とも交流を進めたいです。また、高校受験のために県教委や該当校に話に行くということも今回は必要になりました。

ボランティアの確保

子どもたちに対応するボランティアの方が足りなくなっていました。ボランティアの方からの紹介、大学のゼミで来てくれた学生、その中には期間を超えて学習支援に来て下さる方があり、とても助かっています。高校の先生からの紹介で新しい高校生も来ていただきました。高校生は3年になると大学受験で、参加が難しくなりますが、3月も合格の報告をもってのぞいてくれた方々がいたのはうれしいことでした。子どもたちにいろいろな夢を届けていただきました。神戸女子大の学生は授業の一環で参加してもらえました。賀川記念館のホームページで募集を見て、神戸大や関西学院大学などからの学生の問い合わせがあり、続いている人もおられます。中国人留学生の方の継承は今年も呼びかけていただき、複数参加していただいています。ただ、学生の方々はバイトもあり、就職活動が早くから始まり、最後の1年は卒業論文、博士論文など大きな課題があり、定期的な参加は厳しくなります。

保護者の方の日本語支援

はいずれは、始めた時から、学校と連絡がとれるように保護者も日本語の学習を、と進めてきて、一時中断していましたが、2年前から再開し、ボランティアの関係で、子どもの学習の前に開いています。今はアフガニスタン、中国、インドネシア、ベトナム出身の母親に日本語学習を進めています。子どもたちの学習や生活の課題なども相談でき、有意義な場になっています。

学習会場と賀川記念館の取り組み

2022年度も、賀川記念館の研修行事が比較的少なく、学校関係の見学・学習会も4時までには終わることが多く、ホールを中心に活動することが多くでき助かりました。いよいよ2023年度はオンラインの会議はなくなり、ホールが使われることが増え、ホール以外での活動も増えそうです。また、教材や辞典などが増えており、置き場など整理の仕方考える必要があります。

ボランティアの方の出席、体温検査結果の記入、交通費支払いなども賀川記念館の事務局で担当するという体制が進み、記念館の隣保事業の一環としての位置づけも進んできました。担当者が変わることで、今まで以上に相談、連絡が必要になりそうです。教材費や交通費などの資金面の確保が重要ですが、子どもたちの参加費では賄いきれない中で、老祥記からの赤い羽根募金や教会からの募金なども継続していただけて助かりました。

I.日本語・教科学習支援活動

「MOI」(新長田教室)

小学生 水・木 16:00~18:30 土 10:00~12:00 中学生 水・木 18:00~20:30

「はいず」(三ノ宮教室)

小学生 火・金 16:00～17:30

所属別	MOI	はいず
就学前	2	4(2)
小学校	20	18(3)
中学校	15	2
不就学	0	1
高校生	0	1
(保護者)	(3)	(7)
合計	37+(3)	26+(7)

※プレスクールは除く

() 内は保護者

ルーツ別	MOI	はいず	プレスクール (Moi)	プレスクール (保育園)	合計
ベトナム	17	0+(2)	2	3<1>	22+(2)
中国	9+(1)	18+(2)	3	0	30+(3)
ミャンマー	3	0	1	0	4
ロヒンギャ	3	0	1	0	3
フィリピン	1	1	0	2<1>	4<1>
タイ	1+(1)	0	0	0	1+(1)
タジキスタン	1+(1)	0	0	0	1+(1)
ロシア	1	0	1	0	2
ペルー	1	0	0	0	1
インドネシア	0	1+(1)	1	0	2+(1)
インド	0	1	0	0	1
アフガニスタン	0	2+(1)	0	0	2+(1)
パキスタン	0	2+(1)	0	0	2+(1)
ウクライナ	0	1	3<1>	0	4<1>
韓国	0	0	0	1	1
ブラジル	0	0	0	1	1
合計	37+(3)	26+(7)	11<うちダブル1>	7<うちダブル2>	81+(10)

Ⅱ.外国にルーツを持つ小学校入学前の子どものプレスクール事業

今年度も保育園内でのプレスクールを、9月末に語彙チェックを行ってから、10月から実施しました。あらかじめ保育園から知らされていた子どもの様子や言葉の理解度については、実際にプレスクールをはじめてみるとかなり違っていることがありました。一見器用になんでもできるように見えた子どもが、ひらがなを覚えるのに、誰よりも困難を抱えていたりしました。一方、普段の印象に比して、語彙力やひらがなの認知度が高い子どももいました。また、まだ小学校に入学もしていないのに、既に勉強に対する抵抗感があり、小学校での生活が不安視される子どももいました。

1月からはMOIでのプレスクールも開催しました。来日したばかりの小学生、保育園の年中園児の参加もありました。11人といつも以上に人数が多く、ルーツも様々で、在日年数も違い、保育園にも通いだしたばかり、母国と日本と行ったり来たりなど非常に多様な参加児童でした。

両方のクラスとも、最初に比べると皆メキメキと力をつけていましたが、今回は特に小学校入学後に課題を抱えそうな子どもが多く見受けられました。

実施日:2022年10月～3月までの火曜日 13:30～15:00 開催(全12回)

実施体制:講師:暁英子(元小学校教員)

スタッフ1名

会場:神視保育園

参加者:7名

(ベトナム4名、中国1名、ブラジル×ベトナム1名、韓国1名)

実施日:2023年1月7日(土)～3月25日(土)までの土曜日開催(全12回)

実施体制:講師:賀来秀子(元小学校教員)

ボランティア3名、スタッフ1名

会場:こうべプレススクール(MOI)

参加者:11名(うち年長7名、年中3名、小学生1名)

(中国3名、ウクライナ3名、ベトナム2名、インドネシア1名、ミャンマー1名、ロヒンギャ1名)

Ⅲ. KFC・てんりん日本語教室(於 神視保育園) 毎週月曜日(祝日除く)17～18時

参加者:中国人保護者2名、ベトナム人保護者2名

当初は4名の参加者がいましたが、途中から仕事が忙しくなったりした方がいて、学習者は2名となりました。忙しい保護者に学習してもらえる環境について見直すということで、一旦3月で休止することにしました。

Ⅳ. イベント、研修会等

・10月1日(土)「チャクチャクづくりとタジキスタンについての学習会」参加者14名

・12月28日(水) 年末お楽しみ会 参加者:子ども17名、支援者など10名

Ⅴ. 学生、学校などの受け入れ

・6月～1月 甲南女子大学林ゼミの行動演習プログラム 11名

・通年 神戸大学国内プログラム 10名程度

・2月 NPO・地域活動貢献フェアのトライやる受け入れ 2名

・2月11日～2月22日 神戸学院大学スプリングボランティア受け入れ 5名

・3月～4月 関西国際大学学生受け入れ 8名

在日外国人児童読書の会

新型コロナウイルス感染がまだ収まらない中、with コロナしていくしかない状況なので今年度は6回行いました。流れの内容を変えることなく、感染防止という視点からやり方を変え行いました。本読みは直接ではなく、プロジェクターで拡大して見せました。遊びコーナーではできるだけ触れないで遊べる遊びを選びました。気になるのが、外国人児童の数からみると全員が参加できていないことです。コロナ1年目の活動控えが影響しているのではないかと考えています。

少ない回数ながら、充実した大切な時間でした。嬉しかったことは、日本に来て間もないベトナム児童が自ら手を挙げて、ベトナム語の絵本を読んでもくれたことです。しかし、半年ぐらい経つと、日本語が達者になり、手を挙げなくなり、読んでもらえなくなりました。

長く続いている活動なので長い目でみて、小波があっても大波があっても根気強く継続していきたいです。

グローバル出張読書の会				
期間	場所	時間	スタッフ	参加数

2022年5月17日（火）	駒ヶ林小学校	14:50～15:30	6	15
2022年6月14日（火）	駒ヶ林小学校	14:50～15:30	10	15
2022年9月27日（火）	駒ヶ林小学校	14:50～15:30	3	15
2022年10月18日（火）	駒ヶ林小学校	14:50～15:30	5	10
2022年11月15日（火）	駒ヶ林小学校	14:50～15:30	5	17
2023年2月16日（火）	駒ヶ林小学校	14:50～15:30	6	11

ふたば国際プラザ

新型コロナウイルスの流行や寒波などの影響により来館者数が減少する場面もありましたが、KICCやふたば学舎との連携により各事業を例年以上に活発に行い、特にウクライナ避難民向けの日本語教室の開始やランタン縁日の実施などにより来館者数を伸ばし、年間の来館者数は大幅に過去最高を更新しました。（前年度比：+2920名）

4年目として着実に地域社会における認知度が高まり、ボランティア希望者の問い合わせも多くなりました。ウクライナ避難民支援を行っていることもあり、物資の受付や相談対応における拠点として役割を果たしました。委託事業、自主事業の両輪により生活に必要な情報や日本語学習、その他語学学習、相互理解に繋がる学習機会、交流機会の提供を継続的にを行い、来館者の「希望の実現」「多様性の尊重、相互理解」に向けた取り組みを発展させることができました。

事業の実施にあたっては関係者の協力、連携が大きな力を発揮しました。KICCとは月に一度ミーティングを行い、事業の情報交換や広報協力を進めました。ふたば学舎は広報協力やランタン縁日、文化祭での共同事業実施により互いに相乗効果を得ました。また外国人来館者も多文化ひろめ隊や相互理解講座で登壇したり、ランタン縁日で絵付けやボランティア活動を行ったりするなど積極的に発信する機会があり、多様性を活かした地域発展に取り組むことができました。

広報についてはホームページにやさしい日本語を追加したり活動実績のページへの投稿を積極的行ったりしたほかFacebook、Instagram、LINEを活用して幅広い発信を企画しました。そしてKICCの広報媒体やふたば学舎の月刊誌、HIAのメールニュースなどを利用することによって地域社会や関心を持つ人々へのアプローチを行っていきました。

I 在住外国人支援

外国人住民生活ガイダンス事業

開催日時	内容	講師（職業等）	料金	受講人数(名)
4月13日	ごみの分け方	奥優伽子(ふたば国際プラザ)	無料	7 (中国3、ネパール1、インドネシア1、ロシア1、ウクライナ1)
4月20日	神戸の区と公共交通	奥優伽子(ふたば国際プラザ)		7 (中国3、ネパール1、インドネシア1、ロシア1、ウクライナ1)
5月23日	ごみの分け方	大石貴之(ふたば国際プラザ)		4(ウクライナ)
6月11日	ごみの分け方	神戸市環境局		15(ミャンマー7、タイ2、ロシア2、タジキスタン2、ベトナム2)

7月16日	ごみの分け方	大石貴之(ふたば国際プラザ)		4(ウクライナ)
7月27日	市税について	神戸市行税制局 税務部税制企画課		5 (ウクライナ3、中国2)
9月24日 25日 29日	警報・注意報 と災害への準備	神戸市危機管理室 李乗漢(ふたば国際プラザ) 岡本道代(ふたば国際プラザ)		16 (ウクライナ5、タイ 1、中国2、ネパール 3、ベトナム1、香港 1、ロシア3)
11月22日 ～ 12月22日	履歴書の書き かた	大石貴之(ふたば国際プラザ)		5(ウクライナ)
2月24日 25日 3月1日	神戸の交通	大石貴之(ふたば国際プラザ) 岡本道代(ふたば国際プラザ) 井上照代(ふたば国際プラザ)		21(アフガニスタン1、 インド1、ウクライナ4 、スペイン1、タイ1、 中国2、ナイジェリア 1、ネパール4、ペルー 1、香港1、ロシア4)
合計				84 (前年度比：+18)

Ⅱ 日本人と外国人の交流・相互理解事業

交流・相互理解事業

開催日時	内容	講師(職業等)	受講料金	受講人数(名)
5月4日	世界の遊び広場 (韓国の伝統遊び)	李乗漢 (ふたば国際プラザ)ほか	無料	30
5月29日	新長田フィールド ワーク	金宣吉 (KFC 理事長) ほか	無料	18
8月21日	多文化おばけやしき～世界のゆうれいとであえるよ～	山本則子 (ふたば国際プラザ)ほか 地域ボランティア	無料	180

10月21日 、22日	世界の遊び広場	李乗漢 (ふたば 国際プラ ザ) 永良(ふ たば国際 プラザ)	無料	2,300
11月19日	相互理解講座～世界の学校、日本の学校～	日本と外 国の学校 に通っ た、また は教えた 経験のあ る講師3 名	無料	7
1月9日	いろいろなお正月の遊び	山本則子 (ふたば 国際プラ ザ)ほか 地域ボラ ンティア	無料	39
3月26日	ええとこながた ～多文化をたのしもう～	山本則子 (ふたば 国際プラ ザ)ほか 地域ボラ ンティ ア、多文 化交流員	無料	40
合計				2,614 (前年度比 : +596)

	利用内容	利用 活動数	利用 回数
4月	外国にルーツをもつ子ども英会話、英語交流会、中国語交流会、韓国語交流会、日本語交流会、ベトナム語学習、モンゴル語母語教室、ミャンマー関西	8	36
5月	外国にルーツをもつ子ども英会話、英語交流会、中国語交流会、韓国語交流会、日本語交流会、ベトナム語学習、モンゴル語母語教室、語学交流会、ウクライナ避難民日本語教室	9	33
6月	外国にルーツをもつ子ども英会話、英語交流会、中国語交流会、韓国語交流会、日本語交流会、ベトナム語学習、モンゴル語母語教室、中国語勉強会、ウクライナ避難民日本語教室	9	38
7月	外国にルーツをもつ子ども英会話、英語交流会、中国語交流会、韓国語交流会、日本語交流会、ベトナム語学習、モンゴル語母語教室、ウクライナ避難民日本語教室、夏休み子ども学習支援	9	46
8月	外国にルーツをもつ子ども英会話、英語交流会、中国語交流会、韓国語交流会、日本語交流会、ベトナム語学習、モンゴル語母語教室、ウクライナ避難民日本語教室、夏休み子ども学習支援	9	47
9月	外国にルーツをもつ子ども英会話、英語交流会、中国語交流会、韓国語交流会、日本語交流会、ベトナム語学習、モンゴル語母語教室、ウクライナ避難民日本語教室	8	38
10月	外国にルーツをもつ子ども英会話、英語交流会、中国語交流会、韓国語交流会、日本語交流会、ベトナム語学習、モンゴル語母語教室、ウクライナ避難民日本語教室、ふるさと兵庫創生塾交流活動	9	40
11月	外国にルーツをもつ子ども英会話、英語交流会、中国語交流会、韓国語交流会、日本語交流会、ベトナム語学習、モンゴル語母語教室、ウクライナ避難民日本語教室	8	34
12月	外国にルーツをもつ子ども英会話、英語交流会、中国語交流会、韓国語交流会、日本語交流会、ベトナム語学習、モンゴル語母語教室、ウクライナ避難民日本語教室	8	36
1月	外国にルーツをもつ子ども英会話、英語交流会、中国語交流会、韓国語交流会、日本語交流会、ベトナム語学習、モンゴル語母語教室、ウクライナ避難民日本語教室	8	29
2月	外国にルーツをもつ子ども英会話、英語交流会、中国語交流会、韓国語交流会、日本語交流会、ベトナム語学習、モンゴル語母語教室、ウクライナ避難民日本語教室	8	30
3月	外国にルーツをもつ子ども英会話、英語交流会、中国語交流会、韓国語交流会、日本語交流会、ベトナム語学習、モンゴル語母語教室、ウクライナ避難民日本語教室、多文化共生スターディーサークル	9	35
	合計	102 (前年度 比：+2 5)	442 (前年度 比：+7 5)

交流スペース(日本語学習スペース、会議スペース)の提供(登録活動数：累計のべ 30 件)*前年度比+2

ヒューマン・シネマ上映会

開催日時	内容	講師（ 職業等 ）	受講料金	受講人数 （名）
4月22日	『あの日の声を探して』2014 フランス・グルジア	金宣吉 (KFC 理事長)	無料	11
5月27日	『ノー・マンズ・ランド』 2001 ボスニアヘルツェゴビナ、フランス、イタリア、ベルギー、イギリス、スロベニア			10
6月24日	『ゴールドマウンテン』2003 アメリカ			8
7月22日	『ハッシュパピー』2012 アメリカ			8
8月26日	『イン・ザ・ハイツ』2021 アメリカ			8
9月30日	『幸せなひとりぼっち』2015 スウェーデン			8
10月28日	『トンケの蒼い空』2003 韓国			10
11月25日	『天地黎明』1991 香港			8
12月23日	『野のユリ』1963 アメリカ			7
1月27日	『インビクタス』2009 アメリカ			8
2月24日	『ぐるりのこと』2008 日本			7
合計				93 (前年比： ▲55)

Ⅲ その他人材育成事業

○共生社会に向けたボランティア養成講座 全8回

開催日時	内容	講師（職業等）	受講料金 (円)	受講人数 (名)
10月2日	共生社会とは？	山本晃輔 (関西国際大学講師)	3,000	15
10月9日	神戸に住む外国人の歴史と現状	金宣吉(KFC 理事長)		15
10月16日	1. ボランティアの心構え 2. 多文化共生を考える(レヌカの学び)	奥優伽子(ふたば国際プラザ) 岡本道代(ふたば国際プラザ)		13
10月23日	外国にルーツをもつ子どもの現状と課題	野崎志帆 (甲南女子大学教授)		20
10月30日	傾聴、共感の姿勢を養おう	長谷部治 (神戸市社会福祉協議会)		11
11月6日	1. 共生社会の現場「地域の日本語教室」日本語学習者の話を聞こう 2. 必要なサポートを考えよう	奥優伽子(ふたば国際プラザ) 岡本道代(ふたば国際プラザ)		12
11月13日	1. 共生社会の現場「地域の日本語教室」ボランティア経験者の話を聞こう 2. ボランティアで出来ることと出来ないこと	奥優伽子(ふたば国際プラザ) 岡本道代(ふたば国際プラザ)		9

11月20日	1. 講座の振り返り 2. どんなボランティアになりたい？	奥優伽子(ふたば国際プラザ) 岡本道代(ふたば国際プラザ) 大石貴之(ふたば国際プラザ)		8
合計				103 (前年度比：▲ 19)

多文化ひろめ隊♪(在日外国人ゲストティーチャー)養成講座

開催日時	内容	講師（職業等）	受講料金	参加 講師数	参加 児童館数
5月28日	1. 対象に合わせた日本語表現 2. 前に参加した人からのフィードバック	奥優伽子 大石貴之 (ふたば 国際プラザ)	無料	18	10
10月15日	1. 子どもに合わせた日本語表現 2. 興味をもってもらうための発表の仕方 3. 前に参加した人からのフィードバック			23	15
1月28日	1. 子どもに合わせた日本語表現 2. 興味をもってもらうための発表の仕方 3. 前に参加した人からのフィードバック			16	9
合計				57(前年比 ：+16)	34(前年比 ：+9)

IV 留学生等を活用した国際理解教育事業等

開催時期	派遣講師数(名)	出身国・地域数	派遣児童館数
6月	23	11	11
11月	30	15	15
2月・3月	18	9	9

<派遣講師出身国・地域>

ウクライナ、内モンゴル、エルサルバドル、韓国、キルギス、シリア、台湾、中国、ネパール、フィリピン、ベトナム、ポルトガル、ミャンマー、メキシコ、ロシア

V 地域他団体との連携

KOBE ランタン縁日 2022

○実施日：10月21日(金)、22日(土)16:30-20:30 *大正筋商店街のランタン点灯は10月14日(金)～10月22日(土)

○会場：ふたば学舎、ふたば国際プラザ、大正筋商店街(K I C C 含む)、新長田大橋地下道、神戸生活創造センター

○来場者数：2,300名(ふたば学舎の親子縁日の来場者数)

外国人住民や子どもたちなどが絵付けをした大小 800 個のオリジナルランタンを町中に展開しました。ふたば学舎の親子縁日ではスーパーボールすくい、割りばし鉄砲、世界の遊び、千本引きなどふたば学舎のノウハウやネットワークを活かして多くの方々の協力を得て子どもたちが楽しめるゲームを多数用意しました。またステージ企画ではチンドンの演奏やマジックを披露頂いた他、モンゴル語の母語教室の子どもたちによる演奏やフラダンス、地域のアイドルグループのパフォーマンスなどを行いました。

した。K I C CでもK I C C縁日を企画して頂き、会場マップとスタンプラリーを用意し来場を促すことでK I C Cの利用者数も高まりました。

飲食屋台にも取り組み、地域の店舗や団体・個人の協力を得て韓国、ベトナム、モンゴル、ブラジル、ウクライナ、わたがしの屋台をふたば学舎前とK I C C前で展開しました。K I C C前ではウクライナの人々によるピロシキの販売を行い、ウクライナ避難民支援で通訳をお願いしている方の協力を得て、9名の避難民の方々がピロシキづくりや販売に参加しました。屋台前ではウクライナの国旗をもって楽しそうに販促する姿が見られました。

ボランティアとして関西国際大学、神戸市外国語大学、神戸大学、日本経済大学、流通科学大学の学生や社会人計のべ約60名に手伝って頂きました。

K F C帰国者新長田交流会

オミクロン株の流行により、料理教室や遠足、カラオケ交流会が行えないなどコロナ禍の影響が引き続き残る一年となりましたが、検温、記名、消毒、距離等コロナ対策を取りながらできるだけ通常通りの活動を行えるよう工夫し、制限された環境の中でも活動内容の充実に取り組みました。自粛生活が長引いて、外出しない、人と関わる機会が少なくなっている現状を踏まえ、安全を期して交流会を運営し続けることで期待に応え「居場所」「健康維持」「社会参加」の役割を果たすことができるように取り組みを進めました。感染状況が落ち着いた時期には遠方からでも一世の方々が久々に足を運んで下さり、再会を喜び合う姿が印象的でした。一方で感染状況が比較的悪化した時期には参加者数が減少しました。体調面では帰国者の方々にとっては厳しい一年であり、コロナに罹患された、寒さで持病が悪化した、病気になって手術をしたなどいろいろなお話を伺いました。その中でも交流会を可能な限り通常通り運営することで、いつでも顔を出せる居場所として運営してきました。

帰国者同士のネットワークが希薄になり、お互いにどのように過ごしているかを気にしつつも会える機会が少なく、帰国者同士が共に活動することによって得られる安心感が得られにくい状況が続いています。今後も日本語学習の内容から交流会の内容、運営の仕方まで参加者の方々の意見を聞いて「居場所」、「健康維持」、「社会参加」の役割が果たせるよう取り組んでいきます。

I. 日本語学習

日本語学習については、定期的に参加者の方々にどのような内容が学びたいかを聞き取り、時には講義形式、時には自由会話形式、時には選択式会話形式など、手法をいろいろと変えて、健康、介護予防、日本社会の習慣などに触れる内容を扱ってきました。具体的には問診票の書き方、医者との会話といった実践に即したもののから今年の漢字といった社会の話題など幅広く取り扱い、参加者の関心事や生活面の実用性のある内容を取り扱いました。6月にはデイサービスの看護師の協力も得て認知症の勉強会も行い、認知症のチェック指標を実際に試してみたり、理解を深めたりする内容も取り入れました。

参加者の高齢化が顕著となっており、学んだ内容を繰り返し復習することの必要性が高まっています。そのため、文章を何度も音読したり、同じ語彙を繰り返し学習したりして定着を図りました。ボランティアの方の助けを借りて、学習手法については試行錯誤を行っております。また、防災の内容を取り扱った際には実際に防災グッズを見せて紹介するなど、記憶に残りやすいように工夫しました。

コロナの影響が顕著であった時期には少しでも日本語に触れて、他の参加者との交流が進むようにWeChatを使ったオンラインでの日本語学習機会を火曜日午前10時～12時で提供しました。教室のパソコン機材とホワイトボードを駆使して健康や介護、季節の話題に関する授業を行いました。遠方在住の方を中心に、同居家族以外と繋がりをもつ貴重な機会となりました。

II. 交流会

交流活動では歌に合わせて座ったまま手や足を動かして無理なく体操できる「イス体操」を取り入れた一方で太極拳や広場踊り、中国の足腰を鍛える運動「八段筋」といった中国の文化的背景を活かした帰国者交流会ならではの活動も引き続き行いました。コロナ禍に入ってから中国東北部の伝統踊り「ヤング」は練習する機会も発表する機会もありませんでしたが、1月に明舞地域で発表する機会があり、そのための練習を交流会で行いました。それをきっかけに久しぶりに交流会に足を運んで下さる方もいっしょに、皆で練習して、発表することができました。

また、中国の広場踊りを練習して、ふたば学舎の「まちの文化祭」のステージプログラムで発表しました。人前で発表できる機会は久しぶりに皆さん緊張されていましたが、終わった後には非常に充実した表情をされていました。

そのほか、中国語で動作を説明するナレーションを入れたストレッチや簡単な体操ができるビデオ(座った状態と立った状態の2パターン)を自作し、交流会に取り入れました。

更に今年度新しく始めたこととして、ふたば学舎の裏手の畑を借りて農作物を育てる作業を行いました。二世の方を中心にミニトマトやきゅうり、大根などを育てています。農業の経験のある方々が多く、農作業ができることは生活面で張り合いもでき、運動にもなり生活面のプラスの効果があるようです。

交流会の実施にあたっては、看護科の学生の研修やボランティアの参加を受け入れるなど、多様な人々との交流も意識しました。またウクライナ避難民の支援事業もふたば学舎で行われていることを知り、ウクライナの方々に衣類を提供頂いたこともありました。

Ⅲ. 広報活動

広報活動についてはふたば国際プラザで切り絵作品や絵付けしたランタンを展示し、また交流会の活動紹介を掲示し、月間約800名の一般来館者に発信しました。特に10月のランタン縁日(来場者:2,300名)では帰国者の方々が切り絵を貼り付けたランタンが多くの人々の目に留まりました。

更に地元の自治会のご協力により地下鉄駒ヶ林駅前の壁面スペースで10月から11月の2か月間、一世配偶者の張雨均さんの切り絵作品を展示しました。

また、交流会のリーフレットの配布により帰国者をめぐる社会背景、課題について地域の人々に啓蒙しました。そのほか帰国者通信の発行、KFCの会報(KFCニュース)による発信と、有隣通信など外部媒体への出稿を通して広報活動を行いました。

2022年度 KFC 帰国者新長田交流会実施状況							
(日本語学習及び交流会)							
開催日	交流会			日本語学習			内容
	参加者数	一世	二世	参加者数	一世	二世	
4/5	6	4	2	6	4	2	日本語教室・交流会
4/19	8	5	3	8	5	3	日本語教室・交流会
4/26	6	3	3	6	3	3	日本語教室・交流会
5/3	6	3	3	6	3	3	日本語教室・交流会
5/17	9	5	4	9	5	4	日本語教室・交流会
5/24	9	5	4	9	5	4	日本語教室・交流会
5/31	13	4	9	13	4	9	日本語教室・交流会
6/7	9	4	5	9	4	5	日本語教室・交流会
6/21	8	4	4	8	4	4	日本語教室・交流会
6/28	11	5	6	11	5	6	日本語教室・交流会

7/5	11	6	5	11	6	5	日本語教室・交流会
7/19	5	3	2	N/A	N/A	N/A	映画交流会
7/26	6	4	2	6	4	2	日本語教室・交流会
9/6	7	4	3	N/A	N/A	N/A	映画交流会
9/20	8	4	4	8	4	4	日本語教室・交流会
9/27	9	5	4	9	5	4	日本語教室・交流会
10/4	9	5	4	9	5	4	日本語教室・交流会
10/18	5	2	3	5	2	3	日本語教室・交流会
10/21	3	1	2	N/A	N/A	N/A	ランタン縁日
10/22	4	2	2	N/A	N/A	N/A	ランタン縁日
10/25	7	3	4	7	3	4	日本語教室・交流会
11/1	7	3	4	7	3	4	日本語教室・交流会
11/15	8	4	4	8	4	4	日本語教室・交流会
11/22	9	5	4	N/A	N/A	N/A	映画交流会
11/27	8	4	4	8	4	4	日本語教室・交流会
11/29	8	4	4	N/A	N/A	N/A	文化祭
12/6	9	5	4	9	5	4	日本語教室・交流会
12/20	8	3	5	8	3	5	日本語教室・交流会
1/17	8	4	4	8	4	4	日本語教室・交流会
1/24	9	4	5	9	4	5	日本語教室・交流会
1/31	9	5	4	9	5	4	日本語教室・交流会
2/7	10	6	4	10	6	4	日本語教室・交流会
2/21	10	6	4	10	6	4	日本語教室・交流会
2/28	9	5	4	9	5	4	日本語教室・交流会
3/7	15	7	8	15	7	8	日本語教室・交流会
3/21	10	6	4	N/A	N/A	N/A	映画交流会
3/28	10	6	4	10	6	4	日本語教室・交流会
合計	306	158	148	260	133	127	

KFC 帰国者明舞交流会実施状況				
(日本語学習及び交流会) 会場：みなく～る明舞				
開催日	交流会	交流会	交流会	内容
	参加者数	一世	二世	
4/12	2	2	0	日本語学習・交流会
5/10	2	2	0	日本語学習・交流会

6/14	2	1	1	日本語学習・交流会
7/12	3	2	1	日本語学習・交流会
9/13	5	3	2	日本語学習・交流会
10/11	4	2	2	日本語学習・交流会
11/8	7	4	3	日本語学習・交流会
12/13	7	4	3	日本語学習・交流会
1/10	6	4	2	日本語学習・交流会
1/29	18	8	10	明舞地域交流会
2/14	5	4	1	日本語学習・交流会
3/14	4	2	2	日本語学習・交流会
計	38	24	14	

Ⅱ. 相談事業

今年度も引き続き相談対応を行いました。主に介護や病気治療に関する相談がありました。高齢化の深刻化により、老老介護の状況が続く、本人だけでなく配偶者の方に対してのフォローも必要であることを感じました。不安を抱えたときに相談に乗れる、話を聞ける体制が必要です。

また、今年度は新型コロナウイルスの感染状況が拡大し、コロナにかかったケースもあり、コロナにかかった場合に関する相談がありました。コロナ陽性となり、家族の受診や薬についての相談がありました。日本の新型コロナウイルスワクチン接種などについてあまりご存知でなく、メーカーの違いやメーカーによる副反応の違いについて気になる人が何人かいて、情報の補足が必要だということもありました。

新型コロナウイルスの感染拡大が長く続いている間に高齢化が進み、帰国者同士のネットワークも希薄化しています。お一人おひとりの状況を確認してより細やかな支援が必要です。

デイサービスセンターハナの会（通所介護事業）

2022 年度もデイサービスセンターハナの会は、在日コリアン、日本、ベトナム、中国という多様な文化をもつ利用者の民族性に配慮したサポートで居場所作りに取り組んできました。新規利用者は年間を通じて 11 名ほどで、多文化のルーツを持つ利用者については、外部からの問い合わせも数件ありました。そのような中、高齢者が在宅生活を送るための動作ができるように個別機能訓練とレクリエーションの充実化を図ってきました。利用者も前向きに取り組む中で相互交流もあり、活気が生まれ高齢者の ADL 低下を防ぐことができました。

昼食提供については、昨年度末の調理員雇用後、韓国料理とベトナム料理を安定して提供できるようになり、入浴においても安全に提供することができました。コロナ感染対策は、看護師を中心に徹底して取り組み、予防接種の推奨や予診票の記入などのお手伝いもしてきました。

一方、在宅での自立生活が困難になり、デイサービス利用を中止せざるを得ないケースに加え、利用途中でご逝去された方も 3 名いました。また、コロナ感染者拡大による利用控えなどにより、利用率の減少に伴う売上げ減が長期化しています。さらに、ボランティアの受入れ停止や感染対策の業務などスタッフにかかる負担も多く、レクリエーション活動にも多くの制限がかかる中で模索を続けてきました。

こうした中、新しい介護職1名を迎え、スタッフ全体で利用者同士に寄り添ってサポートしてきました。個別にトラブルになりそうな場面では、適時対応を行い、ケアマネジャーや家族と連携しながら、高齢化がすすむ利用者のサポートのあり方を探っていきました。コロナ感染拡大に伴うなどのスタッフ減員状況が数度にわたり見られましたが、各自が状況に合わせて役割を果たすことができ、乗り越えることができました。レクリエーションにおいては、手先を動かすクラフト作業を積極的に取り入れながら、スタッフが主体的に取り組み、機能訓練をしながら高齢者が明るく楽しく過ごす作風づくりができました。また、ヒヤリハットを積み重ね、スタッフ間で共有して事故防止に努め、安全で安心できる場づくりに励み、研修会では、消防署の協力を仰ぎ、心肺蘇生法を学びました。

看護実習生の現場の受け入れプログラムは、感染対策を行いながら、大手前大学と関西国際大学の看護実習を受け入れました。

今後、利用者増員のための努力に加え、マイノリティコミュニティ団体や地域ボランティアなどとも協力を深め、利用者が充実した在宅生活を送ることができるように、スタッフ一丸となってサポートしていきたいです。

	要支援延べ数	要介護延べ数	延べ利用者数	一日平均
2022年4月	94	121	215	8.3
2022年5月	92	158	250	9.6
2022年6月	87	152	239	9.2
2022年7月	78	156	234	8.7
2022年8月	75	157	232	9.3
2022年9月	80	166	246	9.5
2022年10月	72	196	268	9.9
2022年11月	77	184	261	10.4
2022年12月	76	190	266	10.2
2023年1月	66	167	233	9.7
2023年2月	68	174	242	9.3
2023年3月	79	199	278	10.7
年間	944	2020	2964	9.6

ハナ介護サービス(居宅介護支援事業)

(1) ケアマネジメント実績件数 (単位: 件)

月	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	合計	支援 0.5 換算
4	5	13	17	11	5	7	2	60	51.0
5	4	13	15	13	5	6	2	58	49.5
6	5	14	18	12	6	6	3	64	54.5
7	5	14	20	11	6	7	3	66	56.5
8	4	14	20	11	4	5	2	60	51.0

9	4	15	25	10	3	6	3	66	57.5
10	5	14	23	12	5	6	4	69	59.5
11	6	18	24	9	5	6	4	72	60.0
12	6	18	22	10	3	9	2	70	58.0
1	6	16	23	10	3	9	2	69	58.0
2	6	19	22	9	2	9	3	70	57.0
3	7	19	25	9	1	9	3	73	60.0

2023年3月時点：担当数： フフケアマネ（40名）常勤換算29名 酒井ケアマネ（33名）常勤換算31名

- ・ケアマネジメントでは、利用者様への支援について継続性が保てるよう、必要な対応を講じました。特に今年はエジプトやボリビア等国籍の方にもサービスを提供いたしました。ほか神戸市看護大学主催の研修に参加し地域に暮らす外国人高齢者の看護にについて考えることができました。また、利用者の中に、ベトナムや韓国へ帰国した方もおられました。
- ・3月末実績時点利用者様ルーツ別では、コリアン24名、日本人24名、ベトナム人13名、華僑5名、中国残留邦人帰国者など6名、その他1名であり、文化的背景が多様な状況となっています。また、独居35名と家族による支援が限定的で、生活保護受給39名であり、経済的に厳しい利用者様が多い状況です。

コミュニケーションサポート事業

① 概要

- ・サポーター派遣に伴う利用者（介護保険を利用される方）の費用負担はなく、1人につき、年に4回まで利用することができます。
- ・通訳派遣・サポーター養成だけでなく、言葉や情報の壁の為に制度を利用することができず、必要な日常生活支援が得られないという状況が改善できるよう、今後も本事業の実効的な運用に努めたいと考えています。言葉が通じる方が定期的に訪問することで信頼関係が構築できました。→神戸市の枠の中での運用となり、介護保険との併用利用では、年4回の制限では厳しい状況となっています。

② サポーター等の充実

- ・サポーター研修は次年度の課題となりました。

③ コミサポ利用状況 実績

第1四半期16件、第2四半期16件、第3四半期10件、第4四半期10件 計 年間52件
回数順では、ベトナム語が一番多く、次いで中国語、スペイン語、韓国語、英語の順

ハナ介護サービス（訪問介護事業）

訪問介護事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	27	26	27	30	29	30	31	30	31	31	33	34

現在の契約者数は35名です。ルーツを分けるとコリアン10名、ベトナム9名、日本10名、華僑3名、中国帰国者関係3名です。要支援者が10名で、要介護者25名です。独居は23名です。この一年は要支援者から要介護者になっている方も多くなっています。

訪問介護部は職員兼訪問6名と登録ヘルパー3名で活動してきました。フルタイム勤務のスタッフが

入ることで安定な訪問提供をできています。スタッフが毎日の検温、体調のチェックをした上、週2回PCR検査を実施しています。いつもPCR検査できることで早期発見につながりました。改善が必要なところはまだまだあるので頑張るつもりです。

ヘルパー会議がまだ再開できてないが、この年度も「県知事の呼びかけ・神戸広報誌の多言語（ベトナム語・ポルトガル語・中国語など）を配布しました。

日時	テーマ
2022年4月	ハラスメント防止 まん延防止等重点処置解除（3/17）
2022年5月	高齢者虐待防止の取り組みについて
2022年6月	冊子「ホームヘルパー きほんのき」の改訂版 神戸広報誌4・5月
2022年7月	「全国初！認知症モデル」資料、神戸広報誌6月
2022年8月	「応急手当が愛する人を救う」パンフ 知事の知らせ（8/3/30と7/15）」多言語、神戸広報誌7月
2022年9月	「ストレスマネジメントが必要」 知事の知らせ（8月3日）」多言語、神戸広報誌8月（多言語）
2022年10月	「在宅介護AとZ(22,25,26,27号)」 知事の知らせ（8月24日）」多言語、神戸広報誌9月（多言語）
2022年11月	安全確保対策事業（啓発チラシ）、神戸広報誌10月（多言語版）
2022年12月	「認知症のケア」、神戸広報誌11月（多言語版）
2023年1月	知事の知らせ（11/28と12/21）と神戸広報誌12月（多言語）
2023年2月	神戸広報誌1月と2月（多言語）
2023年3月	「利用者が胸襟を開くとき」と「合わない入れ歯の装着に気付く」 神戸広報誌3月号（多言語）

福祉有償運送

2022年度は再更新登録年でもあり、神戸市に申請後、陸運局まで手続きをしなければならなかったため、ちょっと大変でした。2025年9月まで更新できています。派遣した回数前年よりは少ないですが、使用者数が増えていました。ほとんど通院のための利用でした。

人身事故がありませんでしたが車体へのすり傷になる事故は数件ありました。2023年3月6日（月）7日（火）は安全運転講習をしました。駐車違反がないことは今年度の改善した点だと思います。

年月	利用回数	利用者数
2022年4月	11	8
2022年5月	14	6
2022年6月	10	5
2022年7月	8	6
2022年8月	10	5
2022年9月	10	6
2022年10月	15	7
2022年11月	11	10
2022年12月	10	6

2023年1月	11	6
2023年2月	12	6
2023年3月	17	4
計	148回	78人

グループホーム（認知症対応型共同生活介護）ハナ・小規模多機能型居宅介護ハナ

今年度は、8月にグループホームでコロナウイルス感染が広がり、3階利用者6名、職員6名が罹患しました。当時、お盆期間だったため、依頼しても入院できず、ご利用者様は施設内で療養しました。ご利用者様がワクチンを接種していたのと、主治医や訪問看護ステーションはれの看護師、現場職員の頑張りもあり、重症化せずに回復しました。その時以外でも、第7波、第8波とコロナ感染が広がったおりに小規模多機能のご利用者様、小規模多機能・グループホームの職員が散発的に感染し、自宅待機をしてもらうことがありました。いずれも、重症化して入院するなどがなく経過しました。

2023年度は、5月8日に新型コロナウイルスが、感染症法上の分類で『2類相当』から『5類』に変更になることから、その時期を境に、家族の面会を含め、元の生活に戻していく方向で考えています。しかし、グループホームでは、この3年間の閉鎖的な生活で、ご利用者様の身体面、認知機能面の低下が、個人差はあるものの多く見られます。家族や友人と会って、触れ合う、会話をする、1階で小規模多機能ハナの友人と会うなど、今まで当たり前だったことが出来ずに過ごさざるを得なかった間の長さを感じています。

【重点課題】

I、2021年5月に新型コロナによるクラスターが発生した教訓を踏まえ、引き続き、コロナウイルスへの感染を防ぎ、ご利用者様・職員が安全、安心に過ごせる職場を作ります。

→上記の通り、グループホームハナで感染が発生し、ご利用者様や職員の安全を脅かす状況となりました。ワクチン接種が進んでいたため、重症化こそしなかったのですが、無症状者を含め感染が広がりました。施設内のマニュアルの見直し、感染予防物品の補充などに取り組みました。

また、複数の主治医、かかりつけ薬局、連携先の訪問看護ステーションの助力を仰ぎ、長田区保健センターと連携しながら対応をしました。

II、職場力を高めます

1、情報の共有化ができ、何でも相談しあえる職場作りを目指します

・フロアー会議を中心に、職場でのミーティングの時間を増やし、職員の意見が反映されやすい環境を作ります。

・フロアー会議、リーダー会議、職員会議、サービス担当者会議を定例化します。

→フロアー会議、リーダー会議は、定期的な開催を目指しましたが、感染が広がった時期に召集することは困難でした。施設内での職員会議、サービス担当者会議は開催できていません。

2、職員の育成に努めます

・直接介助である食事、排泄、入浴等の介助や、生活支援である調理、洗濯、掃除等における方法や手順のハナでのマニュアルを作ります。すべて介護には、その手順、方法で行う理由があります。それを理解したうえで、日々の介助や生活支援を行い、新しい職員にも指導できる様にします。

→たたき台は出来ているが、マニュアル化まで出来ていない。

・新人職員教育について、夜勤に入るまでに、ここまではクリアするなど、目処をたてて指導できるようにします。

→フロアー単位で指導をしている。今年度は、夜勤まで入れるようになった職員が、小規模多機能の

フロアーで1名いる。

・2年目以上の職員について、無資格者には実務者研修、有資格者には勤続年数に応じて、認知症介護実践者研修や認知症介護リーダー研修、及び、その他外部研修への参加を支援し、高齢者介護、認知症介護等の基本を理解し、実践ができる職員を育成します。

→認知症介護実践者研修受講職員1名、認知症介護実践リーダー研修1名、実務者研修受講2名、初任者研修受講1名、それぞれ受講しています。

介護福祉士国家試験に5名チャレンジ（実務者研修受講済みの2名含む）、3名合格しました。

・高齢者の生活の場であり、ターミナルケアまで行う施設として、医療との連携を行います。終末期の意向確認や入退院連携シートの作成等を通じ、見通しが持てるような職員の育成を行います。

→終末期のご利用者様で、ハナでの看取りを希望されたケースがありました。コロナ禍ではありましたが、面会の機会を設け、ご家族様の意向を何度も確認しながら、ハナ職員、主治医、はれ看護師さん、薬剤師さん達が気持ちを一つにして見送ることが出来たのではないかと感じています。

・リーダー等役職向けの研修（施設内、施設外含め）を取り入れます。

→役職には、上記の認知症介護実践者研修の受講、また、研修担当者には、研修の組み立ての為に施設外研修を受講してもらうなど、機会があれば参加してもらえるように工夫しました。

・法人の日本語教育部門の支援も受け、外国人職員の日本語教育の機会を確保します。

→現場サイドに任されているため、一緒に記録をしながら教えていますが、指導の時間が十分にとれていません。ただ、記録を忌避する職員はおらず、少しずつでも書こうとする姿勢が見られます。また、日本語能力試験の受験に積極的な職員もあり、N1に1名が合格。N3を受験した職員は残念ながら不合格でしたが、海外の小中学校を卒業した外国人職員が正職員になるためのラインの一つがN3の合格であり（KFC独自の基準）、来年度もチャレンジすると意欲的です。

3、日課の充実

・利用者の意欲を引き出す行事やレクリエーション、体操、生活リハビリの企画、実践に努め、それができる職員を養成します。

Ⅱ、家族や地域とのつながりを継続して持つ

1、面会がしばらく行えないことを念頭に、電話や手紙だけでなく、Line等も用い、小規模多機能型居宅介護ハナやグループホームハナでの活動内容を知ってもらいます。

→グループホームでは、特にLineを活用し、ご家族様に、施設の状況やご利用者様のご様子、施設での取り組みなどをお知らせしました。

2、運営推進会議のオンラインでの実施、地域の自治会、民生委員の参加を引き続き呼びかけていきます。

→オンライン、ハイブリッド、参集など、その時の感染状況に応じて、開催をしました。民生委員、自治会の役員さんなど、地域の方々には出席をしてもらえておらず、来年度の課題です。

Ⅳ、各部署別の方針

1、小規模多機能型居宅介護ハナの経営方針

・コロナウイルス等の感染を防ぎ、安全に運営ができるようにします。

・上半期は登録件数が23件前後で推移し（最大件数24件）、安定的な運営を目指します。

下半期は、最大の登録件数を29件まで引き上げ、常時25件の登録を目指します。

・宿泊について、常に4室は利用者がいる状態を維持できるようにします。

・可能な限り、訪問を強化する体制にシフトし、訪問件数200件/月以上を目指す。職員体制を整え、訪問体制強化加算(1000単位)を算定します。

・通い利用者の認知機能、身体機能向上のための、プログラムを作ります。

・ケアマネジャー3人体制を確立し、ケアマネジメント部門を強化します。

→・コロナウイルスの感染はありましたが、大きく広がることなく終息しました。ただし、ご利用者様の利用控えは年度を通じてあり、感染が広がると休み、落ち着くと再開するなど流動的でした。

・利用者数は、4、5月は22名前後でしたが、小規模多機能からグループホームへの入居などが相次ぎ、その分の、登録定員の補充が進まず、20名を切る月が大半でした。職員数についても、グループホームの欠員を小規模多機能からの応援で埋めてきましたが、それでも、人員が不足する日が月に何日かありました。それに加えて、感染することで、職員が出勤できずに欠員状態となることも年度を通じて何度かありました。その中で、登録数を増やすことが難しい時期もありましたが、法人の赤字の一因となったことには責任を感じています。登録数の29名への引き上げは、来年度に持ち越しです。

・宿泊について、4室が稼働している状況は作ることが出来ました。

・訪問体制強化加算は、訪問カウントの減少、人員の不安定さがあり算定できていません。

・通い利用者の身体機能、認知機能の向上のため、体操、レクリエーションについて、ハナの会の応援の看護師さんに指導してもらい、少しずつ、オリジナリティのあるものが出来つつあります。来年度は、より充実を図りたいと思います。

・ケアマネジャー3人体制の確立は困難でした。来年度、グループホームも含めて、ケアマネ部門の確立に努めたいと思います。

2、グループホームハナの経営方針

・感染対応をしながら、感染者を出さずに利用者の安全と健康を守ります。

・利用者にやさしく接し、丁寧な接遇ができる職員を育成します。

・利用者の健康維持、ADLの維持に努め、利用者の異常の早期発見から、医療と連携し、前年度に続き、平均在室者を17名以上にすることを目指します。

・ケアマネジャーの専任性など、介護業務と分離、独立して業務を行える体制の構築など、ケアマネジメント部門の強化に努めます。

・利用者の健康維持、認知機能の維持のため、体操や生活リハビリ、日課を充実させます。

→・グループホームでクラスターとなりましたが、1フロアで終息し、他に飛び火することは防げました。

・利用者への接遇について、一緒に働く職員や外部の人から、「声かけがきつい」「上から言う」と言われる職員もいます。個別に指導しています。

・利用者についての稼働状況ですが、年末年始に空室がなかなか埋まらない時期がありましたが、それ以外は入院も短期間で、平均在室数を17名以上維持しています。

・ケアマネジャーの専任性は、来年度に持ち越しです。

・利用者の健康維持、認知機能の低下予防のために、外出が出来ない、家族とも満足に会えないという制限された中で、できる限り、各フロアで取り組みを行いました。

その他

I.「多文化共生」を考える研修会 2022

2022年度も様々な地域で活躍されている方にご登壇いただき、コロナ禍のためオンラインで研修会を開催しました。昨年度の反省を生かして申し込み人数を増やしました。今年も当日の参加者は申し込みから減少しましたが、夏休み開催という事もあってか参加人数は増加しました。来年度もオンラインでの実施をする場合には、開催日時、受付方法などについて工夫をしていきたいと思っています。

開催日・内容・参加者数一覧

8 月 18 日(木)【総論～人道的な外国人受け入れを考える～】		
13:05～14:30	「『マイスモールランド』で伝えたかった日本の外国人問題」 川和田 恵真(映画監督) 聞き手 山本 晃輔(関西国際大学教員)	89 名
14:45～16:15	「在日クルド人コミュニティの現状」 ワッカス・チョーラク(一般社団法人 日本クルド文化協会)	
8 月 22 日(月)【日本語教育と外国にルーツを持つ子どもの教育】		
13:00～14:30	「コミュニケーションのための『やさしい日本語』とはなにか」 イ ヨンスク(一橋大学名誉教授)	90 名
14:45～16:15	「令和 3 年度日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査結果の概要について」 平山 大輔(文部科学省総合教育政策局国際教育課外国人児童生徒教育専門官)	
	「外国人の子どもの就学実態調査結果から見える課題、そして今、取り組むべきこと」 榎井 縁(大阪大学大学院 人間科学研究科 特任教授)	
8 月 24 日(水)【外国人との共生に向けての課題】		
13:00～14:30	「世界を揺るがすウクライナ侵攻—何がなぜ起きたのか、いかに対応すべきか」 遠藤 乾(東京大学法学部教授)	85 名
14:45～16:15	「神戸市のウクライナ避難民受入・支援の状況」 出口 幸治(神戸市市長室国際部国際課担当課長)	
8 月 25 日(木)【多文化を活かしたまちづくり】		
13:00～14:30	「生野の在日コリアンと日本人」 谷 富夫(大阪市立大学名誉教授)	83 名
14:45～16:15	「生野コリアタウンの挑戦～多様な人びとが互いに交差(クロス)する豊かな土壌(ベース)～」 宋 悟(NPO 法人 クロスベース代表理事)	

II.調査研究事業

2022 年度、多くの大学、研究者からの調査依頼や研究協力を受け、内容を精査して少数者の生きづらさを解消できるような依頼には可能な限り協力しました。

また笹川平和財団が、5 カ年の計画で進めている「新人流時代の共生社会モデル構築事業」の一環としての委託を受け、「行政・国際交流協会による『多文化共生』地域サービスに係る実態調査」事業を実施し、神戸在住の 6 つのグループ(留学生、在日コリアン、移住家庭若年層(1.5 世、2 世)、中国残留邦人帰国者、技能実習生、結婚移住者)へのフォーカスグループ調査や先駆的な取り組みを進める国際交流協会、移民支援グループからの学習会を通して、兵庫県、神戸市の「多文化共生」施策についての検証を実施しました。

調査成果は、年度末に報告書として刊行しました。

III.第三国定住ミャンマー難民支援事業(第9陣)

2019 年 3 月に神戸に来られた 2 家族 12 名の難民の方たちは、来神して 4 年目となりました。コロナ禍

で様々な不安をお持ちでしたが、神戸での生活も慣れてきたこともあり、必要に応じて家庭訪問を行いました。主には日本語教室などで、書類の記入などのサポートを行いました。

学習が困難な子どももあり、今後も継続した支援が必要だと感じています。

IV. KOBE ランタン縁日 2022

2022年10月21日(金)から22日(土)にかけて、KOBE ランタン縁日2022を開催し、大小約800個のランタンを大正筋商店街の入り口、アスタくにつか3番館、4番館の北側、KICC前、ウィメンズネットこうべや大正筋協力店舗前、ふたば学舎内外に飾りました。ランタンにはウクライナ避難民、日本語教室や子ども学習支援教室の学習者、支援者、子どもたち、地域ボランティア、ウィメンズネットこうべの子どもたち、KICC利用者などが絵付けを行いました。ウクライナの旗や中国の漢字、好きなキャラクターなどの模様を絵の具で描いたり切り絵を貼ったり、文化的背景を活かした絵付けも行いました。当日は色とりどりのランタンが街を彩り、街の賑わいを作りました。

ふたば学舎2階講堂で開催した親子縁日では割りばし鉄砲、スーパーボールすくい、千本引き、世界のあそび体験(中国の切り絵、内モンゴルのシャガイ遊び、ベトナムのボードゲーム)、笑い文字、おかし配りのスタンプラリー(KICCとのコラボ企画)とステージ企画(マジックショー、KOBe r r i e Sステージ、チンドンショーなど)を行いました。大正筋商店街では金魚すくいや世界の屋台なども行い、2日間で約3,000人の来場者がありました。

年々、規模を拡大してきたランタン縁日には、神戸国際コミュニティセンター(KICC)、ウィメンズネットこうべ、大正筋協力店舗など多くの賛同者が増えています。

一方、課題である資金面では、KFCの持ち出しという結果になりました。

継続には、長田区や商店街振興の所轄である神戸市都市局とも連携していくことが必須となっています。

ランタン縁日の今後は、KFCにとって大きな負担ではありますが、外国ルーツ市民の資源を活かし新たな街の文化資源をKFCがリードしていく貴重な機会でもあります。次年度は、新たな枠組みを形成し継続して実施する体制をつくる予定です。

V. 第二創業事業「ばいゆー 地域をつなぐ共生社会へのWebサイト」(2021年10月開設)

2022年2月から、私たちは大学生アルバイトスタッフを受け入れ、既存の事業を補完する形で、生活に役立つ情報や相互理解、協働に関する記事を多言語で投稿し、執筆を進めてきました。具体的には、ふたば国際プラザで展開している事業や生活ガイダンス、ランタン縁日、ウクライナ避難民支援活動の動向に関する情報を、役立つ記事として掲載することに力を注いでいます。また、新たなアイデアを考え、定期的に記事を更新することで、既存事業を補完しながら支援や相互理解、協働の輪を広げていくことを目指しています。

<2022年度投稿記事数>

役立ち情報：29 相互理解：5 協働：37

VI. 定住外国人子ども奨学金実行委員会の事務局運営

今年度も引き続き事務局を引き受け、以下の活動を行いました。

新型コロナが少し収まってきたこともあり、灘チャレンジへのイベント出展やコンサートを3年ぶりに行いました。遺贈寄付をいただいたことで、1学年3名の採用枠を2023年度より4名にすることができました。

3月1日～3月31日 第15期奨学生募集 応募21名

4月3日 書類選考の上、面接7名 決定3名(中国2, 香港1)

9月18日 灘チャレンジ2022出展

12月18日チャリティコンサート開催 参加約80名
2023年3月1日～3月30日 第16期奨学生募集 16名の応募あり。
2023年3月31日 奨学生書類選考(11名を選出)

それぞれ、年3回面談、作文指導を実施。
ニュースレター発行 年3回発行